

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名 一般国道4号石橋宇都宮バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局
起終点 自：栃木県河内郡上三川町下蒲生 至：栃木県宇都宮市平出工業団地		延長 18.7km
事業概要 新4号国道は、埼玉、茨城西部、栃木の主要都市を縦貫する延長約80kmの幹線道路であり、北関東地域の広域幹線道路網を形成するものである。石橋宇都宮バイパスは、新4号国道の一部を形成するものであり、北関東地域の交通基盤の強化と宇都宮市中心市街地の通過交通排除による都市交通円滑化、開発計画等地域振興の支援を図る6車線のバイパス事業である。		
S45年度事業化	S44年度都市計画決定	S45年度用地着手
S47年度工事着手		
全体事業費	約550億円	事業進捗率
		87%
計画交通量	73,400台/日	
費用対効果分析結果 ⁽¹⁾	B/C (事業全体) 3.5 (残事業) 6.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 116/212億円 事業費：41/137億円 維持管理費：75/75億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 752/752億円 走行時間短縮便益：600/600億円 走行費用減少便益：124/124億円 交通事故減少便益：27/27億円	基準年 平成16年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新幹線駅（宇都宮駅）へのアクセス向上が見込まれる） ・都市の再生（東谷・中島土地区画整理事業（インターパーク地区）との連携あり）他13項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 第二4号国道古河・宇都宮間建設促進期成同盟会が整備促進及び立体化整備の推進を要望（要望活動1回/年）		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 北関東自動車道（都賀JCT～宇都宮上三川IC）が供用され、さらに、沿道に工業団地・流通団地、大規模ショッピングセンター等が立地し、当該道路における交通渋滞はますます深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成12年度までに、全線暫定4車線供用済み。関連する道路整備計画と整合を図りながら、主要交差点（瑞穂野団地入口交差点）の立体化を図り、6車線化に向けて事業を進めている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地の取得は100%完了。北関東自動車道の供用、宇都宮上三川IC周辺の土地区画整理事業の整備の動向等を踏まえ、6車線化の完成を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期実現を図る。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図		

(1) 事業全体の費用分析は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。
総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。